



〔講師〕 紙屋克子先生

筑波大学名誉教授（医学博士）

一貫して意識障害患者の看護の実践と研究に取り組み、1973年国際脳神経外科看護学会で意識障害の看護に関する最初の論文を発表し、また、1991年日本看護研究学会において意識障害患者を「重複生活行動障害者」と看護学的に規定することを提唱しました。

1992年、NHKスペシャル・ドキュメンタリー「あなたの声がかきたいー植物人間・生還への挑戦ー」で紹介された看護活動は、医療・看護界のみならず広く一般の方々にも看護の成果と素晴らしさを伝えたことで注目されました。

現在も意識障害者への支援活動と実践的な研究に取り組んでいます。

平成5年度：第27回吉川英治文化賞受賞（意識障害患者に関する長年の看護活動の功績により）

平成18年度：内閣府バリアフリー化推進功労者賞受賞（「ケア付き青森ねぶた」活動に対して）
（医学書院、著者紹介より）

〈略歴〉

1968年 北海道大学 医学部附属看護学校卒業

～79年 北海道大学医学部附属病院で11年間、臨床看護を実践（脳神経外科・精神神経科）

1984年 北星学園大学文学部 社会福祉学科卒業

1990年 北海学園大学法学部 法律学科卒業

1994年 同大学 大学院修士課程（法学：医療法・インフォームドコンセント）修了

1985年 医療法人札幌麻生脳神経外科病院看護部長・副院長

1995年6月 筑波大学 医科学研究科教授（社会医学系）

2000年 筑波大学 人間総合科学研究科教授（ヒューマン・ケア科学専攻）

2004年～2006年 看護・医療科学類長

2008年3月 筑波大学退職

2008年4月 筑波大学 名誉教授

意識障害者さん、家族の皆さんと歩んできた道

声なき声を
聴きながら……

北海道遷延性意識障害者・家族の会「北極星」特別講演会

【日時】 令和5年12月3日（日）14:00～16:20（受付13:30）

【場所】 札幌市中央区北4条西7丁目1-4

北農健保会館2階 大会議室（裏面地図参照） ※同時オンライン配信

遷延性意識障害者の方とご家族、医療、介護、福祉関係者、行政、学生、そのほか意識障害に関心をお持ちの方々を対象とした講演会を開催します。

紙屋先生をお招きし、長く意識障害について研究されてきた「想いと情熱」、その家族に寄り添ってきた経験をお聴きします。

皆さんの参加をお待ちしています。（一般社団法人日本損害保険協会の助成事業のため参加費は無料です。）

主催：北海道遷延性意識障害者・家族の会「北極星」

共催：日本意識障害学会／全国遷延性意識障害者・家族の会

後援：北海道／札幌市／独立行政法人自動車事故対策機構／北海道看護協会／NHK札幌放送局／北海道新聞社／HBC北海道放送／

問い合わせ先 ☒hokkyokusei.hkhd@gmail.com

お申込みフォーム



北海道遷延性意識障害者・家族の会「北極星」特別講演会参加申込み方法

右の申し込みフォームから「氏名」「参加方法」「住所」「電話番号orメールアドレス」「属性等（障害当事者ご家族医療・介護・福祉関係職、行政・団体学生その他）を記入の上、送信してください。

ネット環境をご利用できない方は、電話でお申込みください。

（担当：携帯080-1896-2596）

準備の都合上、11月24日(金)までにお申し込みください。

また、会場参加は定員(90名)に達し次第、締め切らせていただきます。

※お申込みいただいた個人情報は当会の活動以外では使用いたしません。

▶講演会の参加費は無料です。

講演会後に懇親会(有料)を予定しています。当日会場にてご案内します。

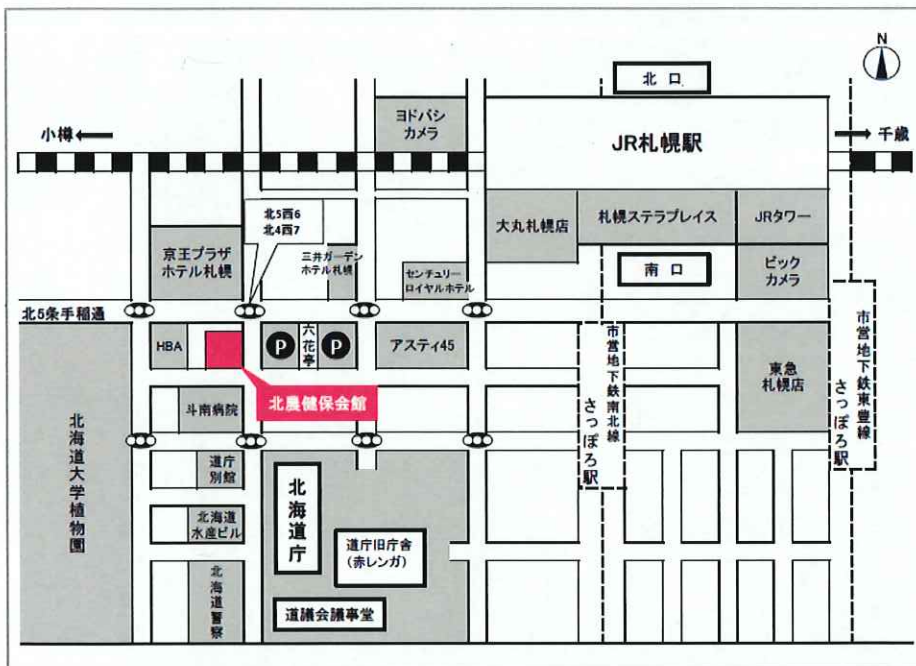


<https://forms.gle/DbdUpfmrVviEoAvi7>

オンライン配信を
ご希望の方も
お申込み願います。

【会場】北農健保会館2階大会議室

札幌市中央区北4条西7丁目1-4 ☎011-261-3270



■交通

- ・JR札幌駅南口・地下鉄南北線札幌駅から 徒歩 5分。
- ・地下鉄東豊線札幌駅から 徒歩10分

■お車をご利用の方

- ・道央高速札幌北インターから15分。

※専用の駐車場がございませんので近隣の有料駐車場をご利用ください。

☑お越しの際にはなるべく公共交通機関をご利用ください。

北海道遷延性(せんえんせい)意識障害者・家族の会「北極星」

私たちは、不慮の事故や病気により、脳に重篤な損傷を受け「遷延性意識障害（意識障害が3ヶ月以上続いている状態）」と診断された重度の障害を持つ患者とその家族です。

「遷延性意識障害」となった私たちの家族は、動くことも話すこともできず、病院、施設、在宅において、療養生活を送っていますが、その家族もまた、適切なりハビリや医療技術、福祉制度、経済的な問題、親なき後の支えなど様々な不安と悩みを抱えています。

そこで、北海道で同じ障害者をもつ家族がつながりを持ち、決してあきらめることなく、仲間と力を合わせ、「どんなに重い障害を負っていても、その人がその人なりに、その人にあった生き方をその人が暮らしやすい地域、環境で、幸せに生きていること」をめざし、活動する会を2015年11月に設立いたしました。

また、この活動は家族だけで行っていくには限界があり、多くの方々のご支援を必要としています。皆様のご理解、ご協力を心からお願い申し上げます。

